

# PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

## LETTER

# 130

## 2015. 12

PHD 運動とは 1962 年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの 10 パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981 年からはじまりました。

発行：公益財団法人 PHD 協会  
住所：〒650-0003 神戸市中央区山本通 4 丁目 2-12  
山手タワーズ 601  
TEL：078-414-7750 FAX：078-414-7611  
E-mail：info@phd-kobe.org  
URL：http://www.phd-kobe.org  
郵便振替口座：公益財団法人 PHD 協会 01110-6-29688

- 報告 ミャンマースタディーツアー . . . P. 2-5  
ネパール大地震被災地支援 . . . P. 10-11  
インドネシアで新プロジェクト . . . P. 13-14



ミャンマースタディーツアー、リニューアル！  
今年は大阪女学院大学との協働で実施。

内戦被害者が集う孤児院での交流、  
少数民族の子どもたちの権利と児童労働についての学習、  
そしてミャンマーでは初となるホームステイ実施。  
なんとそこは水の上にある村だった…。

初めてがたくさんのツアー。学び、気づき、そして出会いがたくさん。  
今回お世話になった全ての人にチェーズティンバーデ（ありがとう）！

# PHD Movement vol.13

## ～分かち合い実践録～

事務局長 坂西卓郎

### ミャンマー 動き出した研修生たち

#### ◆ミャンマーツアーリニューアル！

近年、若い人の参加が減ってきた当会のツアー。国際協力の裾野を広げるべく、より多くの世代の方に参加いただけるようなツアー構築に向け、いくつかの取り組みを行った。

①ツアー事前調査のための現地訪問

②現地ボランティアスタッフの採用

③次年度研修生の選考とツアーの分離

上記の結果、今までとは全く違ったツアーを構築することができた。またタイミングよく大阪女学院大学からも打診があり、協働でツアーを実施することができたことも大きな後押しとなった。この場を借りてお礼を述べたい。

全体のスケジュールや様子などはp.4-5に譲るとして、ここでは今回の軸となった3つのプログラムについて紹介していきたい。

#### ◆ミャンマーでの初のホームスティ！

まずは個人的に念願でもあったミャンマーでの初のホームスティ実施。20年近くミャンマーに関わる中で、都心部以外でのホームスティは初体験であった。民政移管して、いずれは実現できるのでは、と密かに願っていたが、今年度ようやく実現できた。

しかも、水上生活をしている島でのホームスティだった。いつも訪問している村ではないところがミャンマーの複雑な事情を反映していると言える。実はタダインシェ村でもホームスティを実施する予定だったが、急きょ「今日はできない」という結果になった。今までにも「できる」と言われていたことが、明確な理由なく不可となるような理不尽なことがこの国では何度もあった。よって強く驚きはしなかったが、理由は今も不明のままである。

それはさておき、島でのホームスティは異文化体験という意味で強烈なインパクトがあった。この村は毎年雨季には水浸しになり、家と家の間も船で移動する。水が引くともちろん歩いて移動できるし、稲作もするそうだ。当然のように「不便ではないのか？」という質問が出たが、「ここは静かで、自分たちの時間を楽しむことができる。大水で人が死んだこともない」と悠然たる答えが返ってきた。見知らぬ日本人の一行を受け入れてくれたのもこの心持故かも知れない。感謝したい。

今回の実現はトゥントゥンさん（94年度）の日々の活動あつてのことではあるが、民主化の一定程度の進展なしにはあり得なかったことを思うと感慨深い。

#### ◆内戦被害者が集う孤児院での交流！

次に紹介するのはタダインシェ村から約1時間ほど離れたお寺の中にある孤児院への訪問である。表題のように国境付近で今もなお続く民族間の内戦の被害者である子どもたちが集う孤児院を訪問し、交流を行った。

この孤児院はモーママさん（13年度）が関わりを持つ孤児院であるので、少しその背景を説明したい。

この孤児院との出会いは偶然だったらしい。モーママさんの親戚（実はサンティダさんのお母さん）がたまたま道に迷ってたどり着いた先がこのお寺。そこで孤児たちの状況を知り驚き、その後親戚一同でお米を持って訪問したそうだ。その際にモーママさんも衝撃を受けたとのことだった。

モーママさんは「子どもたちはかわいそう。私も何かしたい」と強く思ったものの、何もできない。そこで思い至ったのがPHD協会の活動支援金。

帰国後、地域活動をしていくための土台作り活動支援金を使う研修生が

多い。例えば農業研修生は野菜の種や苗、肥料の購入、洋裁研修生はミシンを購入。ネパールでは何人かの研修生が助産師学校の学費に。このように将来の自分への投資とすることが多く、モーママさんも帰国前は看護師の勉強や、薬屋開店の資金にという計画を立てていた。

しかし「この孤児院の子どもたちのために何かしたい」という気持ちが勝り、子どもたちに食事と歯ブラシを提供することにしたそうだ。モーママさん曰く「子どもたちはご馳走を食べたことがない。だから食べさせてやりたいと思いました」と。

当時、子どもたちは約70人。人数分の食材を買い、親戚のお母さん方にお願ひして、朝3時から作ってもらいお寺に届けたそうだ。「子どもたちはアイスクリームも食べたことないよ！」と届けたものがご馳走だけでなかったところがモーママさんらしい。

今回も親戚総出で食事を作ってくれ、孤児たちと一緒にご飯を食べて遊んだ。それから僧侶と子どもたちにインタビューをさせてもらった。僧侶がどのような経緯や思いでこの孤児院を作ったのか、現在はどうのように運営しているのか。また子どもたちからはどこの出身で、どういう経緯でこの孤児院に来ることになったのかについて聞いた。

子どもたちへのインタビューでは辛い記憶を再度聞くことになり、通訳をしてくれていたモーママさんも涙するシーンがあった。子どもたちはそれぞれ背景は違いながらも、何らかの戦争がきっかけでこの孤児院に来ている状況は同じで、一様に親や兄弟姉妹と強制的に引き離されていた。孤児院では安心して勉強などに打ち込めるものの、「お母さんに会いたい」という孤児もいて内戦がもたらす悲劇を垣間見ることとなった。後日、別の場所で元ビルマ

軍兵士で地雷で足を失った方々のお話を聞く機会にも恵まれ、より戦争を身近に感じさせられた。

#### ◆少数民族の児童労働問題

3つ目の軸はシャン州での子どもの権利についての学び。ミャンマーには公称で135もの民族がいると言われており、シャン州は多民族で知られている地域である。そのシャン州を訪問し、シャン民族の中にある3つの民族の子どもたちと交流を行った。

ここはトゥントゥンさんが設立したNGO、Yankinが現在活動している地域である。

最初にトゥントゥンさんから概要説明と子どもの権利に関しての国連憲章などのレクチャーを受け、「子どもが学校に行く権利」について学んだ。

その後、少数民族の子どもたちと一緒にフォーラムを実施、総勢100名を超える人数でお互いの文化や活動の報告を行った。次の日には実際に子どもたちの村や家を訪問し、活動やそれぞれの状況について話を聞く、という流れだ。

私たちの関心を惹いたのは、交流した子どもたちの多くが子どもの権利の啓発活動などを自ら行っているにもかかわらず、実際には学校に行っていない、ということであった。

なぜなのか？ その答えを聞くべく、子どもたちが権利の啓発活動をするChild Clubを訪問して、その思いを聞いてみた。

その結果、「学校に行くのは面倒くさい」という答えが何人かから返ってきた。もちろん「学校に復学したい」という子どももいたが少数派だった。

この答えは「学校に行くのは子どもの権利で良いこと」と考えていた私たちに混乱をもたらすことになった。

#### ◆「言葉を信じるな、ただし、人を信じろ」

これは私たちが実践している対話型ファシリテーションの提唱者である中

田氏の言葉だ。今回はタヌー民族の子どもたちとの対話などで使用させてもらった手法だが、実践して上記事の言葉を改めて感じた。なぜ言葉を信じてはダメなのか？それは言葉は変化するからである。対話の相手、場の状況だけでなく、自分の体力や精神状況にも影響を受ける。自分の身に振り返って考えてみても、同じ質問を受けて必ずしも同じ答えをする訳ではないことは明らかだ。例えば「この会社に就職したい理由」を面接官に聞かれるのと、友だちに聞かれるのでは答えが違うことがしばしばあるように。

同じようにタヌーの子どもたちが発言した「学校に戻るのが面倒くさい」という言葉もまた額面通りに受け取っていいのか思慮が必要だろう。なぜなら、学びや気づきの喜びは誰でもが持っているものであり、上記のように「学校にいきたくない＝やる気がない、怠惰だ」と決めつける訳にはいかない。

言葉とは前述のように流動性のあるものであるし、またその言葉を発するに至った子どもたちの環境をよく見ないといけない。別のChild Clubの例であるが、15人中7人が学校に行き、8人が日雇いの農作業に従事している。またその給料が一日4,000チャット（約400円）と悪くなく、労働時間が長時間ということもない。職場では同じ村の友だちと一緒に楽しく仕事ができる。一方、学校に戻れば年下の子と机を並べることになり、恥ずかしい気持ちもある。もちろん親は学校に行くよりも収入を得ることを求めている。

上記のような状況を考慮に入れると「学校に戻りたいか？」と聞かれても「戻りたくない」ということになる可能性もあり、意欲の問題とは切り離して考える必要がある。ちなみに「戻りたいか？」という質問自体が、考えを聞く質問なので、対話型ファシリテーションの中では下手な質問とされている。よって、事実とは違うことが浮かび上がってくることも多い。

どちらにせよ、今回私たちが触れたのは、子どもたちの生活のごく一部にしか過ぎない。そこから参加者の皆さんが感じた感情や考えは尊いものであるが、今回の訪問だけで「こうだった」と決めつけるのは間違いが生じる余地があるかも知れない。

ツアー参加者との最後の振り返りで「子どもたちの声を聴いてもやもやしている」という発言があった。

私はこの感覚はとても重要なものだと思う。「もやもやしている」ということは断定をせずに考え続けている、もしくは葛藤していることの証であるからだ。私は国際協力に携わって20年近くになる。その年月が時に「〇〇はこうだ」と決めつけさせることがあるが、なるたけ控えないといけな思っている。多様な現実を前に唯一のベストな解決策などない。言い換えれば「考え続けること」こそ国際協力活動そのものとも言える。

「もやもやしている」、その言葉から初心を思い出させてもらった。

#### ◆動き出した研修生たち

上記3つのプログラムを中心にツアーを振り返ったが、他にもモーママさんのHealth Educationやイエボ村での小学校との交流、ヤンゴンでの生活体験、トランスジェンダーの人が集うナツ神のお祭り体験など、充実した旅となった。

それも元研修生が活動地域を自分の村から広げたことのおかげである。自分たちの地域に留まらずにより社会的に困っている人たちへのアプローチを始めた研修生たち。今回のツアーはそれらの動きと連動したものとなり、ツアーの実施が研修生たちの活動を後押しするものにもなった。自画自賛ではあるが、win-winの関係となったと感じている。来年も実施予定。乞うご期待！

初日



まずは開会で自己紹介



村のお母さんたちが作ってくれた超ごちそう!

5日目



子どもたちから孤児になった経緯を聞く。通訳のモーママさん思わず涙

2日目



現地スタッフのスズさん、モーママさんが迎えてくれました!



ヤンゴンで生活体験。市民の足、環状線に乗り



これも民主化の賜物? ミャンマー初のKFCで昼食



モーママさんたちが支援する孤児院訪問



子どもたちとシャボン玉で遊びました



モーママさん発案、今日だけでもアイスクリームを食べよう!



村に戻り、タナカー体験



モーママさんの health education。避妊について村の人に啓発

ミャンマースタディツアー報告 8月21日~30日

- 集合 自己紹介
- ヤンゴン着 現地スタッフと合流 ヤンゴンでの生活体験
- ヤンゴン在住ボランティアのお話
- 寺院見学
- マンダレーへ移動
- マンダレー YMCA で地域保健レクチャー
- イェボ村小学校訪問
- ビルマ伝統のお菓子作り体験
- シュエグニ孤児院訪問
- タダインシェ村散策
- モーママさんの Health Education レクチャー

3日目



ヤンゴン在住のPHDメンバー愛さんのお話を聞く



マンダレーYMCAの保健活動を学ぶ



ビルマ伝統のお菓子。10個に1つくらい唐辛子爆弾入り♪



紙飛行機、大盛り上がりでした!

4日目



ヤンゴンと言えばシュエダゴンパゴダ!



夜、マンダレー到着。移動はトラック。気分は上々♪



小学校を訪問し子どもたちと折り紙体験



研修生の村で村のごはんを頂く。PHDツアーの醍醐味



芸達者な研修生たち。即興で笛と踊りの競演



楽しいばかりではなく、毎晩その日の振り返りを実施



村で牛車体験! レアです



8軒の家に分かれて夕食。サントウンさんと濱さん、母子の再会?



トウトウンさんが立ちあげたNGO、Yankinの活動紹介



少数民族シヤンの人たちと交流フォーラム開始!



こどもの権利についてのロールプレイ

6日目



フォーラムでは日本からも文化紹介や保健教室を披露



各民族の踊りを披露してくれました!



フォーラム終了後は写真撮影大会、大盛り上がり♪

7日目



フィールドに行き、子どもの権利について学ぶ



児童労働に従事する子どもたちから話を聞く



初のホームステイのために船で島に向かう



元ビルマ軍兵士の方からお話を聞く。地雷で片足を無くしたそう



子どもは学校に行くべき? 児童労働問題は一筋縄でいかないことを実感



なんと水の上に浮かぶ村でした

- シヤン州に移動
- NGO Yankin 活動レクチャー
- 少数民族の人たちとフォーラム開催
- 少数民族における児童労働についてフィールドワーク
- 水上生活の村でホームステイ
- 精霊信仰ナツ神のお祭り参加
- タダインシェ村のお寺の小学校でノート配布
- 研修生たちとフェアウェルパーティ
- NGO・Yankinの事務所訪問
- 現地スタッフとお別れ
- 最終日 開空到着 解散



精霊信仰ナツ神のお祭り。トランスジェンダーの霊媒師が踊る



村に戻り、サントウンさんのお坊さんの学校訪問。ノートを贈る



モーママさんもびっくり。家と家の間も船で移動



パーティ会場に移動



職員今更アリに噛まれ足を負傷



最後の夜は研修生大集合で大パーティ!

9日目



トウトウンさんのお店&NGO訪問



ずっと同行してくれたモーママさんたちともお別れ



涙のお別れ! チェーズティンバーデ

最終日



無時に開空に到着! 皆元気? でないより

# 33期研修生レポート（今里拓哉） 日本での研修と暮らし。



## ■ 4月～10月末の研修

神戸 YMCA 学院専門学校（神戸市中央区／日本語）  
 滞在：木村道子さん（西宮市）  
 寺田まさふみさん（豊岡市／米、野菜、加工品）  
 はらっぱ保育所（西宮市／保育）  
 たから幼稚園（名古屋市熱田区／保育）  
 しょうぶ苑（名古屋市熱田区／介護）  
 名古屋石田学園星城中学校（豊明市／教育）  
 滞在：渡辺観永さん  
 杉の子保育園（神戸市中央区／保育）  
 ステップハウス（高砂市／ハンディキャップガイド）  
 滞在：神吉道子さん  
 円谷豊子さん（篠山市／料理、有機農業）  
 太陽保育園（養父市／保育・栄養）  
 滞在：室見千尋さん  
 シオンの園（隠岐郡西ノ島町／保健・保育）  
 滞在：佐倉真喜子さん  
 松江市保健福祉総合センター（松江市／保健衛生）  
 滞在：佐藤玲子さん、山木勝子さん、  
 中尾千代子さん、浜村愛子さん、米田祝子さん



応急手当の実習（星城中学校）



ネパールではお昼寝の時間はありません（杉の子保育園）

## カンチ・マヤ・タマンさん（27歳・ネパール）



ネパールについてのお話会（はらっぱ保育所）



調理場にも立たせていただきました（はらっぱ保育所）

## カンチさんが驚いたこと

### ■ ネパールにはありません

ネパールには電車はありません。わたしは日本にきて電車に乗るときはびっくりしました。いまはらっぱのおあつたもびっくりしない。

来日してカンチさんが驚いたことの一つは「電車」。ネパールにもインドとの国境付近の平野地帯に電車は通っていますが、カンチさんが住む丘陵地帯にはありません。

テレビで見たことはあるものの、実物を見るのは初めて。まずその長さにビックリ。そして扉が自動で開閉することにビックリ。

しかし受け入れが早いカンチさん。しばらくは人が運転しているのかどうかも理解していない中、気にせず乗っていたようです。

### ■ 99歳！

ネパールにはデイサービスセンターはありません。日本には「はらっぱ」はじめにいました。99歳のあじいさんとあはあさんにあいました。とてもうれしかったです。めあえます。あつたも喜んでました。

世界保健統計2013年によると日本の男女の平均寿命は83歳で1位。それに対してネパールは68歳で126位となっています。カンチさんの出身村タクレでは80代後半のお爺さんが最高齢で、身体を動かすことがままならないそうです。日本の元気なお爺さんお婆さんにカンチさんは驚きです。

またネパールの村にはデイサービスのような施設はありませんが、高齢者は家族が世話するのが当たり前。カンチさんも夜は一人暮らしの叔母の家を訪れ、一緒に寝泊りしているそうです。

# 学びはもちろん多いですが、驚きも…。

## シャフルル（通称：ゾン）さん（36歳・インドネシア）



## ■ 4月～10月末の研修

神戸 YMCA 学院専門学校（神戸市中央区／日本語）  
 滞在：葛原時寛さん、香織さん（神戸市垂水区）  
 中野宗嗣さん（丹波市春日町／牛、野菜、有機農業）  
 渋谷富喜男さん（神戸市西区／野菜、肥料、有機農業）  
 上垣敏明さん（養父市／養鶏、野菜、有機農業）  
 円谷利行さん（篠山市／有機農業）  
 酒井良典さん（篠山市／淡水魚の養殖）  
 牛尾武博さん（神埼郡市川町／養鶏、野菜、有機農業）  
 真柴三幸さん（佐用郡佐用町／野菜、たい肥、飼料、有機農業）  
 寺田まさふみさん（豊岡市／野菜、米、炭素循環農法）  
 橋本慎司さん（丹波市／養鶏、野菜、有機農業）  
 泉精一さん（松山市／養鶏、土着菌）



有機肥料の作り方指導（渋谷さん）



鶏舎の構図について説明を聞く（上垣さん）



養鶏実習の様子（泉さん）



炭素循環農法について学ぶ（寺田さん）

## ゾンさんが驚いたこと

### ■ トンネル

わたしはトンネルいちばんびっくりです。トンネルははじめてはいいですね。おおいね、ほんとうにこころのなかドキドキです。おもしろいと思います。

国際空港がある町パダンからゾンさんの村カユジャングイへは車で山道を約3時間。その間トンネルは一つもありません。間にあるいくつもの山は、クネクネと登り下りを繰り返して通過します。山中の道沿いには地域特産の作物や工芸品が売られ、人や物が行きかい、活気が見られます。

トンネルを怖いと言うゾンさんの発言から、日本の山村とトンネルの関係を考えさせられます。ちなみにゾンさんの母親の畑の近くには、かつて日本から銃を持ってやってきた人たちが作り放置したトンネルが多数あるそうです。

### ■ 一つの畑に色々な野菜を植える

日本にはいろいろな野菜を植える。おもしろいと思います。おもしろいと思います。おもしろいと思います。

研修でお世話になる有機農業指導者の多くは一つの畑で多品目を栽培しています。効率を決して良くなく、作業もより大変です。しかし害虫の予防や駆除に農薬を使用しない分、病気にかかってしまう危険性がより高いです。単一栽培では病気などによって畑の作物全てがやられてしまう可能性があるため、リスク分散を目的に多品目栽培するとのこと。また、店に卸すのではなく、野菜パックとして消費者に直接提供する有機農家は、届ける野菜のパラエティを増やすためにも多品目栽培します。安全で美味しい作物を消費者に提供するため多大な苦勞をされている有機農家に対するゾンさんの驚きです。



■ 4月～10月末の研修

神戸 YMCA 学院専門学校(神戸市中央区/日本語)  
 滞在: 榊育さん、かおりさん(神戸市垂水区)  
 寺田まさふみさん(豊岡市/米、野菜、加工品)  
 たかくら幼稚園(名古屋市熱田区/保育)  
 しょうぶ苑(名古屋市熱田区/介護)  
 椋山女学園大学付属小学校(名古屋市千種区/教育、応急手当)  
 滞在: 渡辺親永さん  
 のぞみ保育園(神戸市須磨区/保育)  
 真柴三幸さん(佐用郡佐用町/野菜、たい肥、飼料、有機農業)  
 円谷豊子さん(篠山市/料理、有機農業)  
 太陽保育園(養父市/保育、栄養)  
 滞在: 室見千尋さん  
 ステップハウス(高砂市/ハンディキャップガイド)  
 滞在: 前田千恵さん  
 橋本慎司さん(丹波市/野菜、有機農業)  
 丹南健康福祉センター(篠山市/保健衛生)  
 滞在: 円谷豊子さん



ミャンマーについてのお話(のぞみ保育園)



苗植えの研修(橋本さん)

サンティダエー(サンティダ)さん (20歳・ミャンマー)

サンティダさんが驚いたこと

■ 子どものしかり方

にほんのおかば こども  
 に わるいことと いいことを  
 じぶんで かんがえてください  
 と いいます。わるいことしたら  
 なにかよくないの ことをお  
 かは こどもに せつめいして  
 あげます。ミャンマーのおこな  
 は せつめい するが すくない  
 です。あつて たたくが お  
 あいずす。

子どもが悪さをした際のしかり方に、ミャンマーと日本では大きな違いがあることにサンティダさんは驚きました。例えばホームステイ先の子どもがサンティダさんのスマホで遊んでいた時のこと。ミャンマーの親であれば怒り、場合によっては手をあげるとのこと。しかしこの時の親は怒るのではなく、「この機械はサンティダさんがミャンマーの友だちとお話するために必要な大切なもの」と説明し理解を促す。以後この子はサンティダさんのスマホを勝手に弄ることはないそうです。



おいちゃんおばあちゃんへ踊りの披露(しょうぶ苑)

■ 日本の料理

にほんじん みなさん  
 は だいたい あじの もとを  
 つかわないで おさかな や トマ  
 ト や いろんな ざいりょうで  
 だしを とります。ミャンマー  
 は だいたい しおて あじの  
 もとで あじを つります。

東南アジアの人々にとって、日本を代表する企業の一つが「味の素」。車にあまり縁がない村人にとっては「トヨタ」などより知名度が高いとの事。サンティダさんの家では、かつて日本の食卓でよく見かけた味の素の瓶を3日足らずで消費するそうです。味の素に頼らずして旨味を出す日本料理に興味を抱いたサンティダさん。出汁についての勉強を自ら希望しました。村では鰹節や昆布などの入手が困難なことから選んだ素材がトマト。出来具合は上々で、村でも作り続けてくれることを期待したいです。



メンバーと共にさをり織(ステップハウス)

関西地域NGO助成プログラム

報告「急がば回れ！  
 インドネシアから短期研修生を招聘して  
 ゴミのポイ捨てゼロ大作戦！」

上記事業は(特活)関西NGO協議会と宗教法人真如苑の協働事業として、関西地域のNGOの活動支援を行うプログラムによるものです。今回、インドネシアから短期研修生ニニスさんを招聘するにあたって活用させていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。(坂西卓郎)

「日本の学校にはゴミが落ちていないと聞いた。その現状を学び、自分の学校でも実践したい」と語ったニニスさんの思いがきっかけで本事業が始まりました。ニニスさんは、MISタベというイスラム系小学校の校長先生で、初の村出身女性校長先生です。

9月30日～10月18日の約3週間の研修で、農家、高校、小学校、保育園、釜ヶ崎、ごみ処分場と研修先は多岐に渡りました。10月17日には当会で報告会を実施し、約30名の前で研修での学びや気づきを報告してくれました。

短い期間ではありましたが、密度の濃い研修となりました。紙面の都合で詳細を報告できないのが残念ですが、好奇心旺盛なニニス校長、高校では食堂で生徒が列を作って並んでい



大阪の小学校で挨拶をするニニス校長



強力通訳ベアのゾンさんと濱さん(釜ヶ崎)

るのに驚き、小学校では一年生が掃除をするのに驚き、「幼少期からの積み重ねが日本の規律正しさを作っている。自分の小学校でも取り入れたい」と語っていました。帰国後、活躍してくれると思います。今後の連携が楽しみです。

日々是東奔西走 研修担当 今里拓哉

私の村では、これしません

6月下旬から7月中旬まで、ゾンさんは兵庫県養父市の麦畑自然農場を営む上垣さんから主に養鶏と有機野菜栽培の研修を受けました。研修中にズッキーニの人工授粉を経験させていただき、植物の授粉を人間が行うことに驚いたそうです。同時に、自分の村では行わないことを勉強していることに疑問を感じていたようです。以下はゾンさんが上垣さんに質問した際の一コマです。

ゾンさん「私の村では人工授粉しません。上垣さんはどうして人工授粉しますか？」

上垣さん「10年前は私の畑も人工授粉の必要はなかった。でも虫が減少してしまったため、今では人工授粉しないと実らない。」

ゾンさん「虫はどうして減りましたか？」

上垣さん「多くの農家が農薬を使うから虫が減ってしまった。あと、農業する人も少なくなったので、野菜などの花が減ったことにより虫も減ったんだ。だから農薬に頼らない農業を持続することが大切なんだ。」

必要ないことからの気づき

ゾンさんの出身村カユジャングイではズッキーニは育てませんが、同じ単性花であるカボチャは栽培しています。そしてゾンさんによると、人工授粉の必要はありません。つまり10年前の上垣さんの畑と同様に、虫たちが授粉を担ってくれています。

現在、カユジャングイ村の大半の人は農業に従事しています。しかしその多くは農薬を使用します。そして出稼ぎとして町や海外に出てしまう人も増え、農業する人は減少傾向にあります。日本が辿ってきた道と重なります。

「私は日本で有機農業を学ぶ機会に恵まれました。この経験を活かし、村に戻ってからは農業仲間たちと共に農薬に頼らない農業を継続していきたい」とゾンさんは語ってくれました。



ズッキーニの人工授粉



有機農業について熱く語ってくださる上垣さん

## ネパール大地震被災地支援 モニタリング報告



前号では、地震発生直後から6月末までの緊急救援活動のご報告をさせていただきました。7月以降も、引き続き復興に向けて現地関係者と連携しながら被災地支援を行っています。

9月13日～30日の日程で現地を訪問し、現地の状況把握、現在取り組んでいる支援プロジェクトのモニタリングを行いましたので、ご報告させていただきます。

### 【日常を取り戻しつつある街】

4月25日にネパールでM7.8の大地震が発生しました。地震発生直後の首都カトマンズでは多くの人が村へ避難し、街から人と車やバイクが急激に減っていました。しかし5か月が経過し、カトマンズでは震災前の活気を取り戻し、市場では野菜や果物を売る人・買う人が道を埋め尽くし、幹線道路は以前のようにバイクや車の渋滞が起っていました。

### ■■ マンガルタール ■■

#### 【仮設住宅建設プロジェクト始動】

当会のカウンターパートである現地 NGO・SAGUN と協働し、9月からカブレパルチョークのマンガルタール地域で仮設住宅建設事業をスタートさせました。マンガルタール地域の890世帯中、最も生活が困窮している約200世帯を対象に行います。

「生活が困窮している」とはどのような世帯を指すのか。マンガルタール地域では、ほとんどの世帯が農業を営み、自給自足の生活をしている人が多いです。SAGUNが決定した規定によると「1年間の内、6か月以上は自給できない且つ現金収入も得ることができない世帯」という定義でした。



マンガルタール地区の各区の代表者とのミーティングの様子

その中でも次に該当する世帯を優先して進めています。①ひとり親の世帯、②障がい者がいる世帯、③70歳以上の高齢者がいる世帯、④妊婦がいる世帯、⑤1歳以下の子どもがいる世帯。

#### 【9つの村の村長との共働】

今回のプロジェクトで一番重要な作業は、仮設住宅建設対象世帯の選定です。マンガルタールは9つの区に分かれており890世帯中、被害が全くなかった人はゼロに等しいほど、多くの方が被災しています。SAGUNのスタッフであるカマルさんの「地震は貧しい人たちの家にだけ来たわけではない」と言う言葉を聞き、対象世帯の選定の難しさを感じました。そこで混乱を起こさず、村の人たちの理解と承認を得ながら進めるため、SAGUNはSAGUN-マンガルタール地域委員会、地域住民フォーラム、政党委員会の方々とは何度もミーティングを重ね、プロジェクトの規定を作成しました。

#### 【復興活動に奮闘するムクさん】

ムクさん(14年度)は日本に来る前から女性の地位向上のため、啓発活動を行っていました。村での賭博行為を禁止するなど、積極的に活動に取組み、「村のために何ができるか」を常に考えながら研修を受けていた事が印象的でした。

ムクさんが帰国して約1ヵ月後に発生した地震。当時ムクさんは体調を崩し寝込んでいたそうで、ピンタリ村を訪れた際、以前より痩せたムクさんがいました。

多くを失ったネパール。「地域の力になりたい」と常々言っていたムクさんの想いと、今回の地震でその気持ちがさらに強くなった

という話を聞き、SAGUNのローカルスタッフとして活動してもらうことにしました。

#### 【プロジェクト開始】

ムクさんの最初の仕事は、被害状況の聞き取りです。マンガルタール地域において、生活が困窮している世帯を対象に前述の仮設住宅建設プロジェクトのための聞き取りを進めており、ムクさんはもう一人の現地スタッフと約200世帯の家を回ります。

今回のプロジェクト主担当であるカマルさんから、詳しい内容と聞き取りを行う上での注意点について説明を受けました。またカマルさんは、現地の事情をよく知るムクさんから被害状況や経済状況について聞いていました。歩いて2時間以上はかかるであろう村に誰が住んでいて、どんな家族構成なのかをムクさんが知っていたことに驚きました。



カマルさんと打ち合わせの様子

#### 【被害状況聞き取り】

9月23日、まず最初にタクレ村(今年度の研修生カンチさんの村)で聞き取りを行いました。

タクレ村住民のほとんどがタマン民族であり、年配の方々の中には公用語であるネパール語を話すことが困難な人もいます。カマルさんのネパール語をタマン民族である

ムクさんがタマン語に通訳するシーンが多々ありました。またタクレ村は広く、山の上の対象世帯候補である14世帯の家々までバイクで片道約1時間かかるようでした。



タクレ村にて聞き取りを行うムクさん

その後、対象候補世帯である10世帯の聞き取りを終えて18時過ぎに約1時間かけて歩いて下山しました。この日は、歩きっぱなしで十分にご飯を食べる時間がなかったため「この仕事は大変ですか？」と聞いたところ「洋裁の仕事はいつも同じことのくり返しが多い。今のNGOの仕事は時々大変だけど村のために働くことができうれしい」と言ってくれました。

### ■■ マハデブスタン ■■

#### 【着実に歩むランマヤさん】

ガハテ村のランマヤさん(12年度)は帰国後、村で虫歯の予防について話をした際、年配の方々あまり耳を傾けてもらえませんでした。それをきっかけに、自分自身の言葉に説得力をつけるため、助産師になりました。地震の影響により、試験結果の通知は遅れたそうですが、高得点を取得したそうです。

震災後は、助産師として最大被害地域と言われているシンドウバルチョークで被災者を対象に医療活動に従事していました。

#### 【SSSのスタッフとして】

助産師となっても、希望する場所で働く事は難しく、故郷から離れた場所で働く人も珍しくないようです。「自分の村に残り、地域のために働きたい」というランマヤさんの強い意志を受け、SSS(第1期研修生のピスタさんが設立したNGO)のクリニックのスタッフ

として助産師業務と地震の被災者支援を兼任して働いてもらうことになりました。被災地支援のため、人件費は皆様からの募金を充当させて頂いております。

先輩助産師であるウルミラさん(10年度)に暖かく見守られながら新人スタッフとしてよく動いていたのが印象的でした。



血圧を測るランマヤさん

#### 【地震がもたらす病気】

地震後、家が崩壊した村の人たちは自らの力で仮設住宅を建設しています。ガハテ村へは当会から緊急支援としてタンを提供しましたが、そのタンを使い、実際に仮設住宅を建設するのは村の人たち自身で行っています。建設中に手足を切ったり、打撲などでSSSを訪れる人が多く、ランマヤさんはそういった人たちの治療に当たっています。また、SSSがあるクンタでも地震後、地盤の変化などが影響し、深刻な水不足になっているようです。水が十分でないため、衛生状態が悪化し、下痢や病気になっている人も少なくなく、「このまま水がない生活が続くのであれば住み慣れた地域を離れ、水がある場所に移らないと生活ができない」という村人の声もあるそうです。

#### 【助産師として女性への啓発活動】

課題は地震後の被害だけではなく、出産後、すぐ畑仕事に戻り、重労働をすることが多いネパールでは、その影響により、子宮脱の女性が少なくないようです。症状が出た後も、周囲の人に中々言い出せず、症状を悪化させることもあるそうです。

女性特有の病気の患者を一人でも減らすため、SSSに来た女性に対して、ランマヤ

さんは治療だけでなく出産後のケアの仕方や家族計画についても伝えていました。

診察に来た方々はランマヤさんの話を真剣に聞いており、着実に前へ進んでいるランマヤさんでした。

#### 【水を求めて片道徒歩30分以上】

ガハテ村でも震災後、地盤の変化等の影響で、湧き水が枯れてしまったとの報告がありました。訪問した9月も水は枯れたままの状態がガハテ村の人々の生活を苦しめています。

パッサンさん(11年度)は水を求めて上り下りのある道を片道30分歩いて水を汲みに行っています。パッサンさん曰く「私より山の上に住んでいる人たちは私の倍以上を歩いて水を汲みに来ています」。

この深刻な状況を受け、パッサンさんたちは生活に不可欠な水を確保するために村の人とミーティングを行ったそうです。どこから水を引っ張ってくるか、どの地域が水を必要としているのか、予算の概算など住民主体でミーティングを行い、ピスタさんに相談し、計画を立て、取り決めを作成したそうです。また、最初の下調べとして水質調査を行ったとの報告がありました。当会では、ガハテ村の水不足の課題に共に取組みたいと考えています。



水質の検査員が村を訪れた際の様子

マンガルタール仮設住宅建設プロジェクト、ガハテ村水不足への取り組みについて今後も見守って頂きたいと思っております。

(井上理子)

## 帰った研修生たちの今 ～インドネシア～



タランバング地域

### 「幼稚園の園長に就任！無給だけど…」

マスラルさん (05年度)



タラタジャラン村の幼稚園の園長に就任。ただ本人曰く「全然嬉しくはないですよ(笑)、だってお金はもらいません」と。就任した経緯を聞くと「前の園長は違う村の人でよくなかった。だから2年ほど休園していた。そこで村の人たちから『マスラルさんにやってほしい』と頼まれた」そう。嬉しくないといいな

ながら、「幼稚園までバイクで通れる道をつくりたい。子どもたちの遊具も欲しい」などと、園長として計画を練っているようでした。ちなみにエリザさん(11年度)も同保育園で保育士として勤務中(無給)で、来年度の研修生はマスラルさん、エリザさんと一緒に保育園や子どもたちの健康のために働ける研修生を招聘することになりました。同じ村のリンダ・エルニタさん、2歳の子どもの母さんです。



タラタジャランの幼稚園

子どもたちは15人。  
「もっとたくさんいいよ」とエリザさん

ロザさん(09年度)結婚しました！

### 「牛御殿？いえ、9年間の努力の成果です」

アフリタさん (22期・04年度)

現在、30歳で娘は6歳。実は現在、新居を建築中なのですが、その資金をどうやって溜めたのか、アフリタさんの9年間の歩みを紹介します。

評議員の納堂氏の報告にもありますが、現地では肉牛の飼育が盛んです。イスラム社会なので、豚肉はご法度。そこで、断食明けなどのお祭りには牛肉をたくさん食べます。その牛を飼育する畜産業は以前から行われていました。ただ村の人にとって仔牛とはいえ高価で購入資金を得ることは容易ではありません。アフリタさんは組合からお金を借りて最初の一头を購入しました。以下、アフリタさんの語りでお届けします。

「結婚した2006年からずっと牛を飼っています。最初はお金がなかったので組合から7万円を借りて同額の牛を購入。約2年後に18万円で販売。そのお金で8万と10

万円を牛を一头ずつ購入し、一头は自分で、もう一头は妹にお世話をしてもらいました。自分でお世話をした牛は20万円で販売、妹がお世話をした牛は利益を半分半分に。その次には4頭買いました。ちょっとお金が足りなかったので、また組合から少し借りました。今は家の材料費購入のために牛を販売し、1頭しかいませんが、最大5頭飼っていました。毎日のお金(生活費)や組合への返済は夫が大工で得た収入で払っています。牛を増やして、その利益には手を付けない方針は夫と話し合っ

て決めました。どうして？ 私たちはお金が無かったので、結婚後も自分たちの家を持つことはできませんでした。だから、いつかは自分たちで家を作りたいと頑張ってきました。この間、牛から収入が得られないので大変でした。9年かかりましたよ」と笑顔で語るアフリタさん。

この地域では牛は財産です。最大5頭飼

### 「村に帰って、私ががんばっていますよ！」

メラティさん (14年度)



帰国後は地域の母子保健活動(ボシアン ドゥ)のスタッフ(カデル)として、月1回の検診に参加。例会にはお母さんと子どもたちが約40名参加し、妊婦の栄養状態や幼児の発育状況をチェックする。その場で早速、日本で勉強した口腔衛生、虫歯の予防について話す。ただ「皆さんわかるけど、本当にやるまでは難しい。例えば夜寝る前に歯磨きをする習慣はないから」と難しさを語るメラティさん。「でも、ゆっくり教えますよ。ここは日本じゃないからね」と先を見据えていました。また洋裁に関してはミシンを購入し、学校の制服のエンブレムをつけるなど活動を開始したところ。これから本格的にがんばっていきたい、とのことでした。ミシン購入のレポートや会計報告がとても丁寧で、メラティさんの性格がよく表現されていました。有言実行のメラティさん、今後も地に足をつけてがんばってくれと思います。今後に期待です。



牛マスター？アフリタさん(上)とお連れ合いさん(右)

育していたアフリタさん、他の研修生から「お金持ち」とからかわれていましたが、9年の苦労があつてのこと。この計画性と成功には村の人も驚いているようで、「牛のことを聞きに来る人もいますよ」とアフリタさん。このアフリタモデルをなんとか地域の貧困層のために役立てられないか、現在研修生たちと協議中です。

### インドネシア出張報告 (2015年9月9日～16日)



PHD協会評議員  
納堂 邦弘

### 12年振りのインドネシア、 タランバング

過去の出張報告書を紐解いてみると、私がPHD協会在職中にインドネシアへ行ったのは2000年と2003年の夏。最後の訪問から実に12年もの歳月が流れたことに若干うろたえつつも、州都パダンの空港へ迎えに来てくれた懐かしい研修生たちの顔を見た途端、一瞬でタイムスリップしたかのような感覚になり、違和感なく現地へ入ることができました。

同行者は当時保健衛生の研修先として大変お世話になった寒者さんと事務局長の坂西さん。現地の最新状況をよく知る、気心の知れたメンバーとの出張はとてもスムーズで充実したものとなりました。

今号では、PHD協会にとって新しい取り組みの一つになるであろう今回のプロジェクト立ち上げの背景や現地での様子について、皆さんに報告できればと思います。

### なぜ、タランバングか？

端的に言ってしまうと、帰国した研修生たちがそれぞれの地域に留まり、生活を築きながら、やる気を継続させて、当会とも積極的に関わってくれている、からでしょうか。

「みんなが定期的集まるための事務所が必要」、「日本の豆腐を作って売りたいので改めて研修したい」等、具体的な相談が現地から出されていたこともあり、その本気度や実現可能性を確認しに行くことが今回の目的の一つでした。

相談や要望の内容を一緒に整理して、議論して、検討することで、現地と当会がこれまでよりも一歩踏み込んだ協力関係を築けないか、と考えての訪問でした。

### 視察とミーティングを重ねながら

関西国際空港を屋前に飛び立ち、パダンに着いたのが翌日の朝。タランバングへ

## インドネシアで新プロジェクト！

Vol.1



牛の飼育について話を聞く

向かう道中からヒアリングや話し合いは始まりました。その日にちょうど開いていた最寄りの大きな市場を訪れ、どんなものが、どのように、いくらで売られているのか、研修生たちと見て回りました。

タランバングに到着したのは夕方16時半ごろ。長年にわたり村長としてがんばっているアフダールさんの家で、夕食をはさんで、初日のミーティングを行いました。

今回の出張でタランバングに滞在できるのは実質5.5日間ほど。来期の研修生の選考や農作業、家事・育児等で忙しい研修生たちとの限られた時間の中で、価値観や考え方を共有しながら、新たなプロジェクトを立ち上げることができるのか、正直なところ手探り状態でのスタートでした。昼間はみんなそれぞれ忙しいため、主に夕食後の時間を使ってミーティングを行いました。日によっては、23時頃まで話し合った日もありました。

まず取り組んだのは、現在のタランバングの課題や問題をどんどん研修生たちから出してもらうこと。村全体に関わる大きな課題から日常生活の中の些細な問題まで、ブレインストーミング的に参加者みんなで意見を出し合いました。

### そして、課題を仕事へ

次のステップへ進むにあたって、大切な視点について説明しました。それは、「村の課題を解決することがみんなの仕事に繋がります。PHDインドネシアグループ(タランバングの元研修生たちのグループ)としての収入が増えて同時に村も良くなっていくテーマ

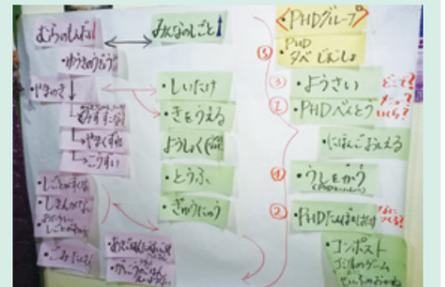
や仕組みを考えよう」ということでした。例えば次のようなアイデアです。村の小学生たちの多くが朝ご飯を食べずに登校し、最初の休み時間にお菓子を買って食べている習慣に対して、有機野菜や卵などを使った栄養のバランスのとれた“PHD弁当”を作って販売してはどうか？

タランバングの中で最貧困層の人々に対して、研修生と日本のPHD協会が協力して、肉牛を貸すことで貧困を脱する最初の資金を産み出せるようにする。そして貸し手側にも基金が積みあがっていくような“牛銀行”の設立はどうか？などです。(※p.12のアフリタさんの部分をご参照下さい)



出てきた意見を少しづつまとめていく

自分一人だけが収入を得られることを目指すのではなく、地域全体の問題に対処しながら村の人の仕事も増えるような仕組みについて、有機農業や洋裁などについても話し合いを重ねました。

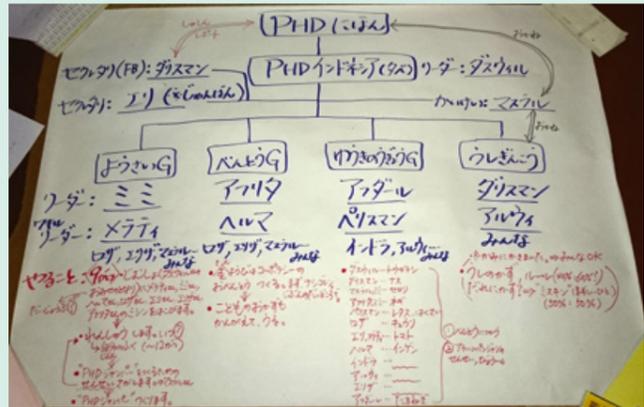


村の課題と仕事の関係を整理する

そんな議論を通じて、当初のアイデアとして出ていた豆腐作りについては、①大豆の栽培がまだこれからである点、②ある程度の設備投資がいること、③現地における豆腐へのニーズや市場規模等が把握できていない点、等から中期的に取り組むこととし

ました。  
 また、事務所の建設については、今回出てきたアイデアが実際に動き出して、収入の目途が立ってきから検討するのも遅くない、という認識で一致しました。

今のところ、12月と来年2月あたりに再訪して、今回の続きやそれぞれの宿題の進捗を確認しあう予定になっています。まだ動き出したばかりで、議論の時間も足りていませんが、実現の可能性が高い取り組みもいくつか見えてきましたし、今後の展開を長い目で応援していただければ嬉しく思います。



できあがった体制図とこれから数か月でやることリスト

## PHD協会の新しい原動力 ～新しい職員、インターンをご紹介します～

### ■ 古寺瑞代さん



9月より、PHD協会の会計面のサポートということで週に2回仕事をさせていただくことになりました。

NGOで働きかけは、13年前に下の子が中学校に進学し、外で働くのもいいかなと思いはじめ、「週2～3日経理募集」という新聞広告を見て某NGOに応募したことです。その後、複数のNGOとNPOの会計、経理を担当し、現在に至っております。NGOで働き始めたころ、2回ほど元町商店街に事務所があった頃のPHD協会でボランティアをさせていただいたことがあります。

長い歴史のある公益財団法人の会計を担当させていただくことに少しワクワクしております。どうぞよろしくお願いいたします。

### ■ 中西美樹さん



9月末からPHD協会にて、「NGO事業補助金担当」としてお仕事をさせて頂くことになりました。

2010年に、青年海外協力隊短期としてインドネシアのスマトラ島に3か月赴任、現地の小学校をまわって、防災啓発活動を行いました。帰国後、インドネシア語のボランティア通訳として、PHD協会の活動に関わらせて頂き、研修生ではエリザさんを中心に時々、お手伝いしていました。

今回はそんなご縁から急きよ、嘱託職員のお話をいただきました。何かと不慣れな面もあるかとは思いますが、頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### ■ 田尻亜紀さん



11月から「NGO事業補助金担当」として働かせていただいています。

2005年4月に青年海外協力隊としてタイの山岳民族カレンの村で織物グループの支援を行っていました。2年間、村人たちと一緒に暮らし、明るくてとてもお洒落なカレンの人たちが大好きになりました。帰国後も民間企業でタイやインドネシアの人々と仕事をしたり、プライベートでもアジアの人々との交流を大事にできました。これからPHD協会ですんなりの方と出会うことを楽しみにしています！

現在1歳の息子の子育て奮闘中。夕方は保育所までママチャリで猛ダッシュしています。どうぞよろしくお願いいたします！

### ■ ジェニー・マパさん



7月13日からインターンをしています。PHDの職員から「インターンになって、何がやりたいですか？」という質問を受けました。私は6年間、フィリピンのNGOでソーシャルワーカーとして、地域の人々やストリートチルドレンを対象とした仕事をしていました。母国では言葉の面で心配はなかったですが、日本で、日本語を使って同じようなことをするのは難しいです。だから、私の答えは「英語教室と料理教室の進行役」でした。PHDには海外からの研修生たちがいます。だからこの教室の目的は、様々な国の文化や暮らしを知ること、互いに仲良くなること、そして互いによりよいコミュニケーションをとることです。10月17日に初めて料理教室をし、インドネシア料理のナシゴレンを作りました。11人の人が参加して、インドネシアの文化と料理を少し習いました。とても楽しかったですよ。

## PHD 活動紹介 7月～10月末



### 7月

- 1-2日 全国NGO相談員会議 (坂西)
- 2日 聖和短期大学 礼拝 (井上)
- 4日 国際協力入門セミナー NGO相談員 (井上)
- 7日 大阪女学院大学 ミャンマースタディーツアー事前授業 (坂西・今里)
- 9日 ワイズメンズ神戸ポートクラブ 講演 (坂西)、和歌山県国際交流協会来訪 (坂西・井上)
- 11日 生活協同組合コープこうべ 平和のつどい (芳田)
- 18日 関西NGO助成プログラム プレゼンテーション (坂西)
- 18日 ソディ例会 (芳田)
- 18日 被災地NGO協働センター 新代表お披露目会 (坂西)
- 19日 加東市連合婦人会 交流会 (今里・芳田・研修生3名)
- 20-31日 ネパール出張 (井上・坂西)
- 25日 ローターリー米山記念奨学会 歓迎会 (今里・研修生3名)

### 8月

- 1日 全国農業教育研究集会 (今里・ゾン)
- 5日 ミャンマー関西来訪 (坂西)
- 7日 ワンワールドフェスティバル for ユース 実行委員会 (坂西)
- 8日 PHD 協会財務委員会 (坂西・芳田)
- 9日 ミャンマー水害救援募金活動 参加 (坂西・今里・芳田)
- 10-11日 第12回多文化共生のための国際理解教育開発教育セミナー 分科会 (坂西)・NGO相談員 (井上)・物品販売 (芳田)
- 12日 シルバーカレッジミャンマーグループ来訪 (サンティダ)
- 13日 兵庫県公益法人室監査 (坂西・井上)
- 21日 ソディ例会 (芳田)
- 21-30日 ミャンマースタディーツアー (坂西・今里)
- 30日 インターアクトクラブ奈良 (井上)

### 9月

- 1日 JICA-NGO協議会 (坂西)
- 9日 神戸NGO協議会 例会 (今里)
- 9日 加古川平成ロータリークラブ 卓話 (井上・サンティダ)
- 2日 ミャンマー関西来訪 (坂西)
- 5日 生活協同組合コープこうべ ネパール義捐金贈呈式 (水野理事長・坂西)
- 5日 社会貢献塾受講生来訪 (坂西)
- 9-17日 インドネシア出張 (坂西・納堂評議員)
- 13-30日 ネパール出張 (井上)
- 15日 コープ岡本 レインボースクール (芳田・ゾン)
- 17日 JICA 関西インターン来訪 (坂西)
- 24日 関西3団体NGO相談員会議 (坂西)
- 26日 JICA研修「紛争解決と共生社会づくりのための実践的参加型コミュニティ開発手法コース」国内研修員面接 (坂西)
- 30日 短期研修生ニニスさん来日～10月17日

### 10月

- 1日 コープこうべ第三地区ボランティア交流会 説明会 (芳田)
- 1日 福知山淑徳高等学校 講義 (坂西・中西・ゾン・ニニス)
- 2日 川西ロータリークラブ 卓話 (井上・サンティダ)
- 3-4日 グローバルフェスタ NGO相談員 (井上)
- 4日 ガールスカウト大阪府連盟 (坂西・サンティダ・カンチ)
- 6日 加古川ロータリークラブ 卓話 (井上・サンティダ)
- 10日 神戸市シルバーカレッジ 学園祭 バザー (芳田)
- 15日 関西学院大学 講義 (坂西・サンティダ)
- 17日 ニニスさんと料理を作って食べよう! (ジェン)
- 17日 短期研修生ニニスさん研修報告会
- 19日 大阪経済大学 インターン2名受け入れ (全3日)
- 19日 JICA関西三浦氏来訪 (坂西)
- 19日 関西NGO協議会 タスクチーム会議 (坂西)
- 21日 篠山ロータリークラブ 卓話 (井上・ゾン)
- 26日 大阪女学院 タイスタディーツアー説明会 (芳田)、PHD 協会財務委員会 (坂西・井上・今里・芳田)
- 27日 JANIC 次期中期計画策定インタビュー (坂西)
- 28日 関西NGO協議会 理事会 (坂西)
- 29日 アーユス関西定例会 ネパール活動報告 (坂西・井上)

9/5 生活協同組合コープこうべ様より、ネパール義捐金を頂戴しました。



10/3-4 東京で開かれたグローバルフェスタにNGO相談員として参加。国際協力やボランティアについて相談を受けました。



10/4 ガールスカウト大阪府連盟にて。サンティダさんもミャンマーについて話しました。

10/17 短期研修生ニニスさんとチシロン作り。



10/17 研修報告会にて、ニニスさんは日本での研修を振り返り、学びを共有しました。



10/19、21、22 大阪経済大学からのインターン2名を受け入れ。篠山の円谷さん宅では有機農業について学びました。

## PHD NEWS

### ◆会費・ご寄附寄託状況

6月	86件	¥2,425,589
7月	68件	¥1,510,699
8月	248件	¥2,943,188
9月	56件	¥18,975,499
458件		¥25,854,975

上記の通り、ネパールへの救援募金を含め、多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

※上記の内、96件¥19,758,610はネパール地震緊急救援募金への寄付金です。

### ◆今年も連合、自動車総連の皆様よりご寄附をいただきました！

今年度も日本労働組合総連合会様から「連合・愛のカンパ」と全日本自動車産業労働組合様から「福祉カンパ特別寄贈」をいただきました。

「連合・愛のカンパ」では「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向け、NGO等を支援されており、当会もご支援いただくことになりました。

11月には自動車総連本部事務所にて「福祉カンパ特別寄贈」贈呈式があり、今年は初めて研修生と一緒に出席させていただきました！

当会にとって大変大きなご支援となっています。組合員の皆様の力強いご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

### ◆海外からの研修生と共に学ぶ

#### 2016年度国内研修生募集！

海外からの研修生とともに学び、気づきを共有しませんか？国際協力に興味がある人、日本の課題が気になる人、これからの進路を考え中の人、是非一度お問い合わせください。

<説明会を行います！！>

日時：2016年2月20日（土）14時～  
場所：PHD協会事務所

### ◆職員2名募集！

2016年度より啓発と総務・財務担当として勤務できる職員を募集します。詳細はHPをご覧ください。1月には説明会も実施します。ぜひご参加下さい。

### ◆西日本研修旅行を実施します

1月中旬に約2週間、研修生が西日本各地を訪ねます。各地で学ばせていただくとともに、交流の会をもちます。

お近くの方には交流会のご案内を送りますので、ぜひお越し下さい。

宮崎～鹿児島～熊本～福岡～山口～広島～岡山

## 〇月×日のPHD協会

### 「新入職員を迎えて一言」

（新入職員は初出勤日もしくはPHDの印象）

**職員 今里 早速**、中西さんに仕事を託す。丁寧で質が高い。しかも、今里の見落としまで指摘をしてくれ大助かり。というか、正職員のイスがやばい？

**職員 芳田 対面**には会計担当古寺さん。「いつでもいいので」と領収書を渡すと「本当にいつでもいい？」との返し。意外な一面、個性的な人がまた一人。

**職員 井上 「職員**の中西です」。ネパール出張からの帰国日に閑空で挨拶され、びっくり。いつのまに。でも、PHDの新しい動きに、ワクワク感も大。

**職員 古寺 事務所**の第一印象は明るい。前の事務所は暗く狭かったの。あれだけ雑多にあった書類はどこへ？若いスタッフが多いのも魅力ですね♪

**職員 中西 初日**の印象は「不思議」。なぜなら面接をしたのが初出勤の前日。よく考える時間もなく、気が付けば職員に。緊張よりも「あれっ？」の初日。

**職員 坂西 急遽**3人も同僚が増える。足りないピースが埋まっていく感覚で嬉し。が、依然として年齢は下から3番目。職場で威張れるのはいつのこと？

**職員 田尻 事務所**が家みたいでびっくり！加えて研修生と職員も家族のようで「いいなあ」。更にじゃがいもや柿も届くなんてやっぱり家みたい♪

### 第34期研修生の ホストファミリー募集！

期間：2016年4月中旬～2017年3月中旬の約1年間。来日後の日本語研修中（6週間）は毎日、現場研修開始以降は、月平均1週間～10日程度。12月～3月は、研修内容により月20日程度となります。

経費：当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。

応募条件：当会事務所から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。  
\*詳しくは、お問い合わせください。



スリジャナさん  
女性・19歳  
ネパール



リンダさん  
女性・22歳  
インドネシア



ティダチョーさん  
女性・24歳  
ミャンマー



### 書き損じ・未使用ハガキは、 ぜひPHD協会まで！！

外貨コイン、使用済み切手、使用済みプリペイドカードも集めています。ご家庭でご不要になったものがありましたら、どうぞPHD協会までお寄せください。よろしくお願ひします！！

来年1月1日から

### 当会への会費も 税控除の対象となります！

事務局では、皆さまからいただく会費も、ご寄付同様に確定申告をしていただくと税控除の対象となるよう、手続きを進めてまいりました。

税控除の対象となる会費は、ご入金日が2016年1月1日以降のものからとさせていただきます。移行準備の都合により、年始以降となりますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

来年1月1日以降、会費につきましても、確定申告の際に必要な領収書を各種証明書等と一緒に送りいたします。

編集協力：桃骨